

だんないの道

第21号

2015年12月28日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつP1	生きづらい社会P2
バリフリストッカー依頼活動P2	だんない祭りP3
今年1年間のふり返りP3	僕はひきこもりでしたP4
活動報告P5	職員リレートークP4
コラム ヨリの雑記帳P7		

代表あいさつ

12月3日で、だんないは5周年を迎えました。初めてヘルパーを使って外出できたときの喜び、初めて会議に出席したときの緊張感、だんない号（公用車）を寄贈されたときのワクワク、だんないシンポジウムを開催したときのドキドキ、職員同士でぶつかったときの苦しさ、新たな当事者仲間と出会えた嬉しさ、だんない祭りを開催できたときの達成感、生きづらさと向き合う仲間言葉かけるときの責任感、世の中が抱える問題を語り合うときのみんなの息づかい、このような思い出が走馬灯のようによみがえってきます。

どの出来事も「若造、だんない」を成長させてくれました。長いようで短く、短いようで長い、簡単に一言では言い表せられない5年間でした。この間に温かく見守っていただいた会員みなさまを始め、お世話になったすべての方々に心から感謝申し上げます。そして、これからも気を引き締めて活動を展開していく所存です。引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、今年も「だんない祭り」を11月3日に開催することができました。朝から雨が降ったりやんだり、ホームページの天気予報サイトとにらめっこしながら、やきもきしていました。「今年も雨か…」、「『だんない雨祭り』に改名しよか…」、「雨男はだれや！」などとボヤキながら準備を進めました。いよいよ開会の時間となり、司会のたにけん・まゆちゃんがスタートを呼びかけました。すると、雨がやんで雲のすき間から光が差し込んできたのです。あの時のうれしさは、まるで奇跡が起きたかのような感じでした。足元の悪い中、しかも何かとイベントが重なる日でしたが、たくさんの方が協力・参加してくださいました。本当にありがとうございました。

そして、時折降る雨と強風の中でギター演奏いただいた「CIL 湖北」代表の佐野武和様、小さな事務所の限られたスペースの中でいろいろな手品を披露いただいた「ジョーカー」様、昨年に引き続き心温まる琴演奏いただいた「メイプル」様には、控えめな方々が多い千田の雰囲気の中で盛り上げていただいたことに改めて感謝申し上げます。だんないのメンバーも、この祭りによって、よりいっそう丸となった気がします。今後も地域の方々となつなかり合える企画を、小里を筆頭にいろいろと打ち出していくので、ご参加ください！

2015年ももう終わりですが、国レベルでは障害者差別解消法が施行されるのを前に、法律に書かれていない細かい対応などを定めたガイドラインが各省庁から出されました。差別にあたらぬ正当化事例がいくつも規定されているなど、差別を解消するどころか、差別を公認してしまっていることに大きな恐れを感じています。「この対応さえしておけば差別にあたらぬのだから、あとは知りません。」などと、障害者と健常者がまったく人間味の感じられない関係性になっていかないと危惧しています。

茨城県の教育委員からは「障害者は減らしていく方向で」といった発言が公然と飛び出しました。また、社会保障審議会の障害者部会では『障害者も高齢者も分け隔てなく』のスローガンを都合のよいように切り貼りし、障害者にも負担を求めようとする動きが出てきています。このように、障害者をおびやかすような情勢ができてつあります。

2016年は、どのような年になるのでしょうか。私たちにとって良からぬ事態が起こりそうな予感もしますが、そんな逆境にへこたれることなく、『だんないの道』を歩み続けたいです。今年も読んでいただき、ありがとうございました。そして、来年もよろしくお祈いします。良いお年をお迎えください！

美濃部 裕道

生きづらい社会

小里 和也

この衝撃的なニュースはご存じですか？

先日、茨城県教育委員の長谷川智恵子氏が11月18日に開かれた県総合教育会議で、特別支援学校を視察した経験を話すなかで、「妊娠初期にもっと（障害の有無が）わかるようにできないのか」「茨城県では減らしていける方向になったらいい」「障害児が生まれてくると大変 かわいそう」などと発言しました。

翌日には、この発言を撤回し辞任されました。撤回の際、「みなさまに差別をしたつもりはない」と発言されました。これは、母親と障害者に対する許せない差別です。

私は、このニュースを知った時「今、生きている障害者の存在はどうなるんだ。ふざけるな」、「もし、自分が生まれる前に出生前診断があったら生まれていなかった」と思いました。

ショックを通り過ぎて怒りでいっぱいです。だんないとして、また障害当事者として許すことができません！

そして、この問題をうけ、尊厳死・優生思想でもよく言われていることですが、人工呼吸器をつけている人が突然、医療費削減のため「呼吸器を外せ」と言われるかもしれない。そのような、生きづらい社会、危険な社会で私たちは生きています。

自分が生きている理由を聞かれたらすぐに皆さんは答えられますか？ 私は、答えられません。

なぜ、この質問をしたかと言うと茨城県の問題は「障害者は生きている理由はない」と言われているような発言にもなるからです。

でも、障害者・健常者も関係なく、すぐ答えは出てこないと思います。理由が答えられなかったら、生きていられないのかということにもなります。

生きている理由があるから生きているのではなくて、いま命があるから生きている、生かされているんだと私は、思っています！

バリアフリステッカー依頼活動

西堀 敬



「C I Lだんない」では2014年から、店頭で「店舗利用 困難のある方へ お手伝いします」という表示のあるステッカーの店頭への掲示をお願いすべく、活動を続けている。事務所近くの本町から始め、今年の夏からは湖北地域の中心であり、観光地である「黒壁」周辺の店への依頼活動を始めている。百軒以上の店があり、障害をもつ人も全国からやって来る。

小里 和也企画局長を中心に何人かでグループを組み、回っている。黒壁地区

では10月末時点で約100軒の店にお願いしてきた。中には受け取りを渋る店もあったが、ほとんどの店で一応ステッカーは受け取ってもらえた。今月に入り、その後どれだけの店で貼っていただいているか調べてみた。結果、36軒で貼っていただいていた。約3割。以前の他の地区でもこのような数字



であった。この数字が良いか悪いかの評価は置くとして、一軒、一軒回ってお願いしただけに、握手するマークがあるステッカーが光って見えていた。

反応が良く「分かりました。」と、すぐに答えていただいた店では多くの店で掲示されていた。そして、すべてとは言えないが、ステッカーを貼っていただいた店は地元で以前から営業されている店が多いように感じられた。人との繋がりが強いということであろうか。「責任者がいないから聞いておく。会社と相談する。」と答えた店の多くは、その後、確認しても残念ながら掲示されていないことが多かった。一方、その時は「責任は持てない。」と厳しい反応をされた店が後で、掲示されていたこともあった。掲示されていなかった店の理由を自分勝手に考察してみると、店の美観に関わるという理由もあるだろうが、他のステッカーが貼られている店もあり一概には言えず。どのような活動なのか分からないという所ではないのだろうか。そうしたことから考えると、貼ってもらえることは大切ではあるが、障害者が気軽に店を利用出来ない現実があることを意識してもらうこともこの活動の大切なことだと思う。

本当はこんなステッカーなどは必要がない社会が良いに決まっているが。

だんない祭り

岡田真由子

11月3日、だんない祭りを開催しました。私は司会を担当し、緊張したけど上手く出来てよかったです。お客さんもいっぱい来てくれて楽しい一日になりました。

来年はもっと楽しい事考え盛り上げたいと思います。

皆さん参加してくださりありがとうございました。

今年1年間のふり返り～だんないで活動して～

大橋 早香

今年の3月、私はだんないの活動員になりました。

私の第一回目の活動は『バリアフリー調査』でした。駅やだんないの近くの会館のスロープや多目的トイレの調査（スロープの角度・トイレの広さ・手すりの位置など）をしました。それ以降も、美濃部さんや小里さんと一緒にいろんな場所へバリアフリー調査に行きました。

それから、ステッカー貼りをしたり、研修としていろんな場所に講演を聴きにいたりしました。活動をしたり、講演を聴いたりすると、自分の世界がどれだけせまかったか、自分がいかに今の社会について知らないことが多いかが分かってきました。

そして、少しずつですが、分かったこと、気づいたことがあります。それは、私たちの周りには、まだまだ、たくさんのバリアであふれているということです。

バリアフリー調査でも、スペースがせまい多目的トイレや、角度が急なスロープを見かけることがありました。これでは、見た目だけのバリアフリーであり、本当にバリアフリーかどうか考えると、そうではないと思います。

トイレのスペースがせまければ、介助がしづらいし、介助されにくいです。急な角度のスロープなら、車いすで上り下りするのは怖いし、それを、そばで見ている介助者も不安になることでしょう。

ただ、バリアフリー化が少しずつ進んできているとも、私は感じています。だから、より良くしていきたいと思います。そのために、スロープや多目的トイレを設置する時は、当事者つまり、利用する人の意見を取り入れてほしいな～と思います。

これからは、福祉制度や差別解消法などについて、学んでいきたいと思います。来年から、大学に進学しますが、学校生活を楽しみつつ、他の学生と接していつて障害者の自分を知ってもらいたいです。そして、私自身も周りの健常者の学生や先生も、障害者と健常者の共生社会について考えるきっかけになればいいな～と思います。

僕はひきこもりでした

谷口 健人

僕は死にたがりのひきこもりでした。

今まで 26 年間、なんやかんやと生きてきたけれど、本当に、自分が生きるということ、命を何に使うのか、何のために生きるのか、生きるということに真剣に向き合うということをしていなかったと思います。

22 才のとき大学を卒業して、なんとなくフツーにそれなりに楽しく生きていたつもりだったけれど、本当に何のために生きるのかということを考えてこなかったように思います。

気がつけば大学卒業から 3 年が経ち、25 才のとき、障害が重くなる二次障害に向き合うことになりました。それまで自分で動かしていた身体が動かせなくなる、首や手指がしびれる、腰が痛い状態がずっと続く—そんなふうになったとき、「こんなつらい思いをしてまで、なぜ生きなければならないのだろう？ いっそ今すぐ死ねたら楽なのに…もう死んでしまいたい 消えてしまいたい…」そんなことを毎日考えていました。

なぜ僕は障害者なのか…なぜ産まれてしまったのか…そんなことを考えながら、車の走る高速道路に出ていってみたりしていました。

「今日中に死のう」、「明日には死のう」、「今週中には死ぬんだ」、「今月中には…」、「年内には死ぬから」—毎日、そんなことを考えたり、言ったりしていたと思います。だけど、結局死ぬませんでした。自殺とかどれもこれも痛そうやし、未遂で終わって下手に生き残ってしまったら、マジで生き地獄やし…。食べんかったら死ぬよなとか思ってみても、おなかは減りました。食べました。毎日食べて、生き延び続けていました。

「俺は、自分で死ぬことすらできてないんやん…」

自殺をあきらめました。死ぬまで生きるしかないということがわかりました。

僕が死ぬことも生きることもできなくなっている間も、電話とかメールとかくれて、いろいろ気にしてくれていた仲間がいました。ごはんを食べさせてくれた両親、家族がいました。

死ぬことをいっぱい考えて、死ぬことをあきらめたら、生きることが少しみえた気がして、僕は今ここに生きています。仲間と一緒に生きています。だんないと、また出逢えました。自分らしく生きていいんだ、自分らしく生きられるんだということが少しずつ感じられるようになってきて、「生きなくてはならないから生きる」から「生きたいから生きる」へと、少しずつ変わってきました。

今死にたい感じで居る人には、死にたくても、障害あってもブサイクでも、デブでもハゲでもキモオタでも、何だっていいから、死にたいままでもいいから、生きてほしいです。そしてもしよければ、僕とお話ししましょう。だんないで待ってます。

職員リレートーク

「だんない」と出会う

谷口健吾

だんないに入社して3ヶ月が経とうとしています。

私は高校卒業後、今まで老人福祉施設で入浴、食事の介助、洗濯、掃除、介護記録や担当者会議などをやってきました。時間内にすべてこなすという所で、なかなか流れをこなせない私がいきました。

しかし2年、3年と経つにつれ、利用者の方との会話が増えましたが、利用者の方の出身が滋賀、福井はもちろん、東北から四国、九州まで色々な地域の方がおられ、各地域の言葉が有り大変でしたが、時間を作り、話をしながら色々なことを学び、最後にはあだ名までつけられました。

しかし、今年の2月に契約切れですることもなく半年が経とうとしたとき、だんないとであいました。

だんないのみなさんの活動に参加させて頂くようになり、電動車椅子(電くる)でのサッカー、ポッチャやC1L 同士の交流会や意見交換など積極的に活動されていて、自分にとって初めてのことばかりでした。これからも色々初めてのことがあると思いますが、自分に出来ることを精一杯したいと思います。よろしくお願ひします。

活動報告

日付	内容	参加者
10月2日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	市川
10月3日	障害児を普通学校へ・全国連絡会 第17回全国交流会 in 神奈川	頼尊
10月5日	だんないステッカー貼り in 黒壁	美濃部・小里 谷口・岡田
10月5日	成年後見弁護の傍聴	頼尊
10月6日	ピアカウンセリング in かぼちゃランド	
10月8日	JIL ヤング委員会	小里
10月9日	長浜養護学校文化祭（高等部）	
10月10日	アクセス関西ネットワーク集会 in おおさか	美濃部・小里 谷口・大橋
10月12日	北部地域障害者ネットワーク会議	美濃部・小里 谷口・大橋
10月13日	だんない企画会議	
10月14日	ケース会議	美濃部
10月14日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川
10月15日	障害者の滋賀の共同行動実行委員会 in 野洲	
10月16日	関西ブロックIL合宿 in 舞州	
10月17日	秋の大学トーク	頼尊
10月18日	だんないピアカン	
10月18日	障害平等研修 in 坂戸	頼尊
10月19日	だんないステッカー貼り in 黒壁	
10月20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会	
10月23日	長浜養護学校文化祭（中学部）訪問	
10月24日	長浜養護学校文化祭（小学部）	
10月25日	彦根ILP イベント	小里・岡田
10月27日	改正法人税法説明会	頼尊
10月28日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
10月31日	福祉の職場説明会	美濃部
10月31日	ピープルファースト大会 in 兵庫	頼尊
11月3日	だんない祭り	
11月4日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部
11月5日	タウンホーム職員研修	美濃部
11月6日	ピアカウンセリング in ぼてとファーム	小里
11月7日	「介護保障を考える弁護士と障害者の会全国ネット」シンポジウム	小里・大橋
11月7日～	障害学会	頼尊

11月8日		
11月10日	ピアカウンセリング委員会	美濃部・小里
11月13日	だんない企画会議	
11月15日	北部地域障害者ネットワーク学習会 講演	頼尊
11月16日	長浜養護学校 講演	美濃部・小里
11月16日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
11月17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポート推進委員会 事務局ケース会議	頼尊
11月20日	やまぶきILP	
11月20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	市川
11月21日	ポッチャ大会in草津	
11月23日	ポジティブキャンプin長居	
12月26日	和歌山赤十字看護専門学校 講演	小里
11月27日	息長小学校 講演	美濃部・市川
11月27日	滋賀県立大学 講演	小里
11月28~ 11月29日	第4回DPI障害者政策討論集会	頼尊
12月1日	ヤング委員会	小里
12月3日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	市川
12月3日	木之本中学校 講演	美濃部
12月3日	高月更正女性会 研修	
12月4日	坂田小学校 講演	美濃部・市川
12月6日	アクセスマニア集会in仙台 発表	頼尊
12月6日	だんないピアカン	
12月7日	だんない研修会	
12月8日	ピアカウンセリング委員会	美濃部・小里
12月10日	公開講座打ち合わせ	小里
12月11日	だんない交流会	
12月13日	大坂障害者自立セミナー2015	美濃部・小里 谷口・大橋・岡田
12月14日 ~16日	JIL全国セミナーin博多	頼尊
12月17日	企画会議	
12月21日	新琵琶湖博物館創造ユニバーサルデザイン評価	美濃部
12月22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポート推進委員会 事務局ケース会議	美濃部
12月23日	北部地域障害者ネットワーク 会議	
12月24日	だんない忘年会	

コラム

ヨリの雑記帳（20）

頼尊恒信

時が経つのは早いもので、先日、雑記帳の原稿を書いたと思いきや、もう20話目の執筆をしなくてはならない時期になってしまっている。私の隣の席で、美濃部代表にせかさながら、この原稿を書いている。

「なんでだろう？」とおもって前号の発行日を見ると、11月中旬。1ヶ月半前だ。この1ヶ月半、外出がとにかく多かった。色んなご縁によって、多くの人に出会わせていただいた。その中でも、仙台市交通局の東西線開業のニュースは未来に希望が持てるものであった。なぜなら、鉄道の新線開業は、まちづくりの基礎となるからである。

振り返ると、1997年に京都市地下鉄東西線が開業し、ホームと電車との段差を解消した設計をすることにより、また、精度が低く、安全に単独乗降できるのは電動車椅子だけであったが、国内初の単独自力乗降が可能となった。これは、それまで、渡し板（スロープ板）を出してもらうなど駅員さんの介助を受けたり、介助者に車椅子の前輪を浮かしてもらったりしなければ、絶対に電車には乗れなかった。地上から地下に降り、切符を買い、改札を通り、地下ホームから電車に乗る。この一連の動作が介助なしに、単独で乗降が可能となったということ、コペルニクス的大転換が行われたといえよう。

その後、2000年には交通バリアフリー法が施行された。同年、都営三田線がランダム設置であったものの、国内初のホームかさ上げ工事とホームドアの整備が行われた。2003年、福岡市地下鉄七隈線が開業し、京都市地下鉄東西線のレベルよりさらに段差解消をし、全扉、手動・電動を問わず、すべての車椅子使用者が単独で自力乗降が可能となった。2006年にはバリアフリー新法が施行され、2008年には横浜市地下鉄グリーンラインが開業、福岡市地下鉄七隈線レベルを継承した。2013年には大阪市地下鉄長堀鶴見緑地線のホーム改良工事が行われ、国内初のホーム全面かさ上げ化による完全単独自力乗降可能になった。翌年には、大阪市地下鉄千日前線もホーム全面かさ上げ化による完全単独自力乗降が可能となった。

そのような歴史を継承した形で、今月、仙台市地下鉄東西線が開業したのである。このように書くと、バリアフリー整備は、日進月歩であるかのように見える。しかし、その間にも、例えば、つくばエクスプレス（2005年）、近鉄けいはんな線（2006年）、東京メトロ副都心線（2008年）、阪神なんば線（2009年）、九州新幹線（2004年、2011年）などの新線が開業している。もちろん、近鉄けいはんな線、東京メトロ副都心線、阪神なんば線は、相互乗り入れ区間にある新線で、乗り入れる車両の高さなどが一定ではないのでホームと電車の段差解消は難しい点もあることは事実である。また、JR大阪駅改良工事（2004-2009年）、JR新大阪駅改良工事（2012年-現在）、東京モノレールホーム改良（2010年）、JR山手線ホーム改良（2010年-現在）と新型車両導入（2015年）など、既存駅の改修工事もあった。これもまた、段差解消や隙間解消が福岡市地下鉄七隈線レベルでは行われず、介助が必要なレベルにとどまっている。

このような現状にあって、仙台地下鉄東西線開業は、自力乗降可能レベルが確保されるかどうかは、私としても注目の的であった。結果、ホームと電車の段差、隙間は自力乗降可能レベルが確保され、しかも改札口にいたっては、全改札口拡幅改札が整備された。これは、それまで、1カ所～複数カ所のための拡幅化であった改札口のバリアフリー化に一石を投じるものであった。その他にも、見やすいサインなど、名実とも「最新の地下鉄」と呼べるものであった。

今回の東西線は、現在予定されている地下鉄としては、最後の全線新線開業であると言われている。その点においても、有終の美といえるものである。もちろん、おおさか東線の延伸（2018年？）など路線延伸や駅舎改良工事は、今後も続くと予想される。1997年にホームと車両の段差・隙間解消の思想や技術が開発されてから現在まで、その技術が利用されるか否かは鉄道事業者（設計者も含む）の胸先三寸で決まってきた。その結果、車椅子利用者が単独で自力乗降が可能な新線・新駅は数が限られているという現状を生み出した。

私たちも含めて、どんどん、数少ない新線を利用して、自分自身で自由に乗降できる喜びを十分に堪能したいものである。

（よりたか つねのぶ）



NPO 法人CIL だんない

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

URL : www.ab.auone-net.jp/~dannai

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店

加入者名 : NPO 法人CIL だんない

〒529-0423

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

TEL : 0749-50-3639

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

00940-2-209115